

平成30年4月11日

「修了証明書・科目履修証明書（大学院用）」の発行について

本証明書の発行を希望する場合は、以下の手順にてご申請ください。

1. 愛知教育大学ウェブサイトにて 2018年3月19日付で公表した次ページ以降の「公認心理師受験資格科目への読み替え対応について（大学院教育学研究科）」の読み替え対応表をプリントアウトし、成績証明書を参考にご自身の履修した科目全てに蛍光ペンを引く。

2. 愛知教育大学ウェブサイト「卒業・修了生用証明書の発行について」に従って必要書類をそろえ、マーキング済みの読み替え対応表とあわせて教務課へ申請する。

※「証明書発行申請書」の「証明書の種類」の区分は、「上記以外の証明書の場合は、各窓口担当までお問い合わせください。」の欄に、“公認心理師試験 修了証明書・科目履修証明書”とご記入ください。

発行手数料は400円です。

3. 教務課で、マーキングされた履修科目と実際の履修単位および該当領域を照らし合わせて、証明書を発行。※なお、発行までに1週間程度を要しますので、時間に余裕をもって申請してください。

注1 マーキングをする読み替え対応表は、必ず 2018年3月19日付で公表された次ページ以降の読み替え対応表をご使用ください。

注2 「修了証明書・科目履修証明書（大学院用）」の発行は、本学が受験資格の有無を判断するものではありません。各自の責任で受験のお申込いただきますようお願いいたします。

参考1 「公認心理師受験資格科目への読み替え対応について（大学院教育学研究科）」

https://www.aichi-edu.ac.jp/guest/files/shinri_yomikae_180320.pdf

参考2 「卒業・修了生用証明書の発行について」

<http://www.aichi-edu.ac.jp/contact/certificate.html>

※2018年4月11日 読み替え対応表に掲載漏れのあった科目を追加し、更新しました。（新たに読み替え対応を行ったわけではありません。）

平成 30 年 3 月 19 日

修了生の皆様へ

公認心理師の受験資格の特例措置に基づき、1997 年度（平成 9 年度）から 2016 年度（平成 28 年度）までの間に、学校教育臨床専攻、障害児教育専攻、学校教育専攻、発達教育科学専攻に、入学し修了された方に対し、随時読み替え対応表を作成してきました。複数の専攻の読み替え対応表が並行して公開されておりましたので、この度、これまで公開された対応表に一部科目を追加し集約を行いました。

また、3 月 19 日を持ちまして読み替え対応を終了させていただきますこと、お含みおきください。受験資格の特例「Dルート」での受験を希望される方は、ご自身で成績証明書を手の上、読み替え対応表と照らし合わせて履修された単位の読み替え確認を行ってください。なお、各個人の履修された科目と公認心理師科目との読み替えについて、本学で確認して通知することや、公認心理師試験の受験資格の有無について本学で判断することはありません。各自の責任で確認していただきますようお願いいたします。

お問い合わせ先

国立大学法人愛知教育大学

教務課大学院係 0566-26-2697

愛知教育大学大学院教育学研究科学校教育臨床専攻 公認心理師カリキュラム読み替え一覧

公認心理師附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるための必要な科目の取り扱いについて（文部科学省平成29年9月15日）

法施行日前に大学院の課程を修了した場合又は法施行日前に大学院に入学している場合

①から⑩までの科目をその類似性からⅠ～Ⅲの3つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計6科目以上相当）を修めている場合に法附則第2条第1校第1号又は同項第2号に該当するものとする

| 平成12年度～平成15年度 入学者 | | | |
|-------------------|-------------------|--------------------------------|--|
| 区分 | 必要科目数 | 公認心理師カリキュラム 科目名 | 愛知教育大学大学院教育学研究科 学校教育臨床専攻 科目名 |
| A 心理実践科目 | Ⅰ ①を必修として3科目以上 | ①保健医療分野に関する理論と支援の展開 | (児童)精神医学特論 心身医学特論 障害児病理特論（*障害児教育専攻開講科目） 障害児病理特論Ⅰ（*障害児教育専攻開講科目） 障害児病理特論Ⅱ（*障害児教育専攻開講科目） 障害児病理演習Ⅰ（*障害児教育専攻開講科目） 障害児病理演習Ⅱ（*障害児教育専攻開講科目） 障害児保健学特論Ⅰ（*障害児教育専攻開講科目） 障害児保健学特論Ⅱ（*障害児教育専攻開講科目） 学校精神保健特論（*養護教育専攻開講科目） |
| | | ②福祉分野に関する理論と支援の展開 | 障害児臨床特論 教育福祉行政特論 教育福祉行政特演 |
| | | ③教育分野に関する理論と支援の展開 | 教育臨床心理学特論Ⅰ 教育臨床心理学特論Ⅱ 認知発達過程特論 教授・学習過程特論 教育集団心理学特論 学校社会臨床特論 学校社会臨床特演 学級指導特論 学級指導特演 |
| | | ④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | 非行心理学特論 |
| | | ⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | Ⅱ 2科目以上 | ⑥心理的アセスメントに関する理論と実践 | 教育臨床心理査定演習Ⅰ 教育臨床心理査定演習Ⅱ 人格査定演習Ⅰ 人格査定演習Ⅱ |
| | | ⑦心理支援に関する理論と実践 | 心理療法特論 心理療法特論Ⅰ 心理療法特論Ⅱ 心理療法特論Ⅲ 学校カウンセリング特論Ⅰ 学校カウンセリング特論Ⅱ 学校精神保健演習Ⅰ（*養護教育専攻開講科目） 学校精神保健演習Ⅱ（*養護教育専攻開講科目） |
| | | ⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | グループアプローチ特論 グループアプローチ特論Ⅰ グループアプローチ特論Ⅱ 地域生活指導特論 地域生活指導特演 |
| | | ⑨心の健康教育に関する理論と実践 | キャリア・ガイダンス特論 |
| | B 実習科目 | Ⅲ 450時間以上（※施設の分野及び時間数を問わない） | ⑩心理実践演習 |

注) 公認心理師科目に対応する専攻の科目を複数履修していても、1科目と数える。

注) 専攻の科目が、①～⑩のうち複数の公認心理師科目領域に記載されている場合でも、いずれか一つの公認心理師科目にしか読み替えることはできない。複数の科目に読み替えることはできない。

愛知教育大学大学院教育学研究科学校教育臨床専攻 公認心理師カリキュラム読み替え一覧

公認心理師附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるための必要な科目の取り扱いについて（文部科学省平成29年9月15日）

法施行日前に大学院の課程を修了した場合又は法施行日前に大学院に入学している場合

①から⑩までの科目をその類似性からⅠ～Ⅲの3つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計6科目以上相当）を修めている場合に法附則第2条第1校第1号又は同項第2号に該当するものとする

| | | 平成16～平成20年度 入学者 | |
|---------------------|---------------------------|--------------------------------|--|
| 区分 | 必要科目数 | 公認心理師カリキュラム 科目名 | 愛知教育大学大学院教育学研究科 学校教育臨床専攻 科目名 |
| A 心理 実践 科目 | Ⅰ ①を必修 として3 科目以上 | ①保健医療分野に関する理論と支援の展開 | (児童)精神医学特論 心身医学特論 障害児病理特論（*障害児教育専攻開講科目） 障害児保健学特論（*障害児教育専攻開講科目） 障害者生理・病理特論Ⅰ（*障害児教育専攻開講科目） |
| | | ②福祉分野に関する理論と支援の展開 | 障害児臨床特論 心理・福祉行政特論 教育福祉行政特論 |
| | | ③教育分野に関する理論と支援の展開 | 人格心理学特論 認知発達過程特論 認知発達過程特論Ⅰ 認知発達過程特論Ⅱ 教授・学習過程特論 学校臨床心理学特論 教育集団心理学特論 学校社会臨床特論 学校社会臨床特論 |
| | | ④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | 犯罪心理学特論 非行心理学特論 |
| | | ⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | Ⅱ 2科目以上 | ⑥心理的アセスメントに関する理論と実践 | 臨床心理査定演習Ⅰ 臨床心理査定演習Ⅱ |
| | | ⑦心理支援に関する理論と実践 | 臨床心理面接Ⅰ 臨床心理面接Ⅱ 遊戯療法特論 箱庭療法特論 行動療法特論 分析的な心理療法特論 イメージ療法特論 イメージ療法特論Ⅰ イメージ療法特論Ⅱ 学校臨床実習Ⅰ 学校臨床実習Ⅱ |
| | | ⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | グループアプローチ特論 地域生活指導特論 地域生活指導特論 家族心理学特論 臨床心理地域援助特論 |
| | | ⑨心の健康教育に関する理論と実践 | キャリア・ガイダンス特論 キャリア・ガイダンス研究特論 |
| | B 実習 科目 | Ⅲ 450時間以上（※施設の分野及び時間数を問わない） | ⑩心理実践演習 |

注) 公認心理師科目に対応する専攻の科目を複数履修していても、1科目と数える。

注) 専攻の科目が、①～⑩のうち複数の公認心理師科目領域に記載されている場合でも、いずれか一つの公認心理師科目にしか読み替えることはできない。複数の科目に読み替えることはできない。

愛知教育大学大学院教育学研究科学校教育臨床専攻 公認心理師カリキュラム読み替え一覧

公認心理師附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるための必要な科目の取り扱いについて（文部科学省平成29年9月15日）

法施行日前に大学院の課程を修了した場合又は法施行日前に大学院に入学している場合

①から⑩までの科目をその類似性からⅠ～Ⅲの3つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計6科目以上相当）を修めている場合に法附則第2条第1号又は同項第2号に該当するものとする

| 平成21年度～平成28年度 入学者 | | | |
|---------------------|--|--------------------------------|--|
| 区分 | 必要科目数 | 公認心理師カリキュラム 科目名 | 愛知教育大学大学院教育学研究科 学校教育臨床専攻 科目名 |
| A 心理 実践 科目 | Ⅰ ①を必修 として3 科目以上 | ①保健医療分野に関する理論と支援の展開 | 精神医学特論 (児童)精神医学特論 心身医学特論 障害者生理・病理特論Ⅰ（*障害児教育専攻開講科目） |
| | | ②福祉分野に関する理論と支援の展開 | 障害児臨床特論 障害者認知心理学特論Ⅱ（*障害児教育専攻開講科目） |
| | | ③教育分野に関する理論と支援の展開 | 人格心理学特論 認知発達過程特論Ⅰ 認知発達過程特論Ⅱ 教授・学習過程特論Ⅰ 教授・学習過程特論Ⅱ 教授・学習過程特論 教育心理学特論 学校臨床心理学特論 教育集団心理学特論 |
| | | ④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | 犯罪心理学特論 |
| | | ⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | 人間関係学特論 |
| | Ⅱ 2科目以上 | ⑥心理的アセスメントに関する理論と実践 | 臨床心理査定演習Ⅰ 臨床心理査定演習Ⅱ 臨床心理面接特論Ⅰ 臨床心理面接特論Ⅱ 臨床心理面接Ⅰ 臨床心理面接Ⅱ 遊戯療法特論 行動療法特論 心理療法特論 分析的な心理療法特論 イメージ療法特論 学校臨床実習Ⅰ 学校臨床実習Ⅱ 臨床心理面接演習Ⅰ 臨床心理面接演習Ⅱ |
| | | ⑦心理支援に関する理論と実践 | |
| | | ⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | 家族心理学特論 臨床心理地域援助特論 |
| | | ⑨心の健康教育に関する理論と実践 | キャリア・ガイダンス研究特論 |
| | | | |
| B 実習 科目 | Ⅲ 450時間 以上（※ 施設の分 野及び時 間数を問 わない） | ⑩心理実践演習 | 臨床心理実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅱ 学校臨床実習Ⅰ 学校臨床実習Ⅱ |

注) 公認心理師科目に対応する専攻の科目を複数履修していても、1科目と数える。

注) 専攻の科目が、①～⑩のうち複数の公認心理師科目領域に記載されている場合でも、いずれか一つの公認心理師科目にし読み替えることはできない。複数の科目に読み替えることはできない。

愛知教育大学大学院教育学研究科障害児教育専攻 公認心理師カリキュラム読み替え一覧

公認心理師附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるための必要な科目の取り扱いについて（文部科学省平成29年9月15日）

法施行日前に大学院の課程を修了した場合又は法施行日前に大学院に入学している場合

①から⑩までの科目をその類似性からⅠ～Ⅲの3つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計6科目以上相当）を修めている場合に法附則第2条第1校第1号又は同項第2号に該当するものとする

| 平成9年度～平成11年度 入学者 | | | |
|------------------|-------------------|--------------------------------|--|
| 区分 | 必要科目数 | 公認心理師カリキュラム 科目名 | 愛知教育大学大学院教育学研究科 障害児教育専攻 科目名 |
| A 心理実践科目 | Ⅰ ①を必修として3科目以上 | ①保健医療分野に関する理論と支援の展開 | 障害児病理特論 障害児病理特論Ⅰ 障害児病理演習 障害児保健学特論Ⅰ 障害児保健学特論Ⅱ |
| | | ②福祉分野に関する理論と支援の展開 | 障害児発達心理学特論 乳幼児発達心理学演習 運動障害心理学特論Ⅰ 運動障害心理学特論Ⅱ 運動障害心理学演習 社会福祉学特論 聴覚言語障害心理学特論 言語発達心理学演習 ソーシャルワーク特論 ソーシャルワーク演習 |
| | | ③教育分野に関する理論と支援の展開 | 障害児臨床教育学特論 障害児臨床教育学演習 言語障害児指導法特論 聴覚障害児指導法特論 障害児教育リハビリテーション特論 障害児教育リハビリテーション演習 |
| | | ④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | ⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | Ⅱ 2科目以上 | ⑥心理的アセスメントに関する理論と実践 | 知能心理学特論Ⅰ 知能心理学特論Ⅱ 知能心理学演習 聴覚言語障害診断法演習 |
| | | ⑦心理支援に関する理論と実践 | 情緒障害児心理学演習 情緒障害児心理学特論Ⅰ 情緒障害児心理学特論Ⅱ 心理臨床演習 心理臨床特論 心理療法特論 |
| | | ⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| | | ⑨心の健康教育に関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| | | Ⅲ 450時間以上（※施設の分野及び時間数を問わない） | ⑩心理実践演習 |

注) 公認心理師科目に対応する専攻の科目を複数履修していても、1科目と数える。

注) 専攻の科目が、①～⑩のうち複数の公認心理師科目領域に記載されている場合でも、いずれか一つの公認心理師科目にし読み替えることはできない。複数の科目に読み替えることはできない。

愛知教育大学大学院教育学研究科学校教育専攻 公認心理師カリキュラム読み替え一覧

公認心理師附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるための必要な科目の取り扱いについて（文部科学省平成29年9月15日）

法施行日前に大学院の課程を修了した場合又は法施行日前に大学院に入学している場合

①から⑩までの科目をその類似性からⅠ～Ⅲの3つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計6科目以上相当）を修めている場合に法附則第2条第1項第1号又は同項第2号に該当するものとする

| | | 平成9年度～平成13年度 入学者 | |
|---------------------|-------------------------------|--|---|
| 区分 | 必要科目数 | 公認心理師カリキュラム 科目名 | 愛知教育大学大学院教育学研究科 学校教育専攻 科目名 |
| A 心理 実践 科目 | Ⅰ ①を必修 として3 科目以上 | ①保健医療分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | ②福祉分野に関する理論と支援の展開 | 発達心理学特論Ⅰ, 発達心理学特論Ⅱ 発達心理学演習 発達心理学演習Ⅰ, 発達心理学演習Ⅱ 幼児心理学特論Ⅰ, 幼児心理学特論Ⅱ 幼児心理学演習 幼児心理学演習Ⅰ, 幼児心理学演習Ⅱ 保育内容研究特論Ⅰ, 保育内容研究特論Ⅱ, 保育内容研究特論Ⅲ 保育内容研究特論 保育内容研究演習Ⅰ, 保育内容研究演習Ⅱ, 保育内容研究演習Ⅲ, 保育内容研究演習Ⅳ 保育内容実践研究特論Ⅰ, 保育内容実践研究特論Ⅱ |
| | | ③教育分野に関する理論と支援の展開 | 生活指導特論Ⅰ, 生活指導特論Ⅱ 生活指導特論 教育心理学特論Ⅰ, 教育心理学特論Ⅱ 教授・学習過程特論 教授・学習過程演習 教育評価特論 教育心理学演習 教育心理学演習Ⅰ, 教育心理学演習Ⅱ 発達心理学特論Ⅰ, 発達心理学特論Ⅱ 発達心理学演習 発達心理学演習Ⅰ, 発達心理学演習Ⅱ 認知発達過程特論 認知発達過程演習 認知発達過程演習Ⅰ, 認知発達過程演習Ⅱ 人格発達過程特論Ⅰ, 人格発達過程特論Ⅱ 人格発達過程特論 人格発達過程演習 道徳性発達特論Ⅰ, 道徳性発達特論Ⅱ 道徳性発達演習 道徳性発達演習Ⅰ, 道徳性発達演習Ⅱ |
| | | ④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | ⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | Ⅱ 2科目以上 | ⑥心理的アセスメントに関する理論と実践 | 心理検査法特論Ⅰ, 心理検査法特論Ⅱ 心理検査法特論 心理検査法演習 臨床心理査定特論 臨床心理査定演習 臨床心理査定演習Ⅰ, 臨床心理査定演習Ⅱ, 臨床心理査定演習Ⅲ, 臨床心理査定演習Ⅳ 教育評価演習Ⅱ |
| | | ⑦心理支援に関する理論と実践 | カウンセリング特論Ⅰ, カウンセリング特論Ⅱ カウンセリング演習 臨床心理学演習 心理療法論特論 心理療法論演習 臨床心理面接特論Ⅰ, 臨床心理面接特論Ⅱ |
| | | ⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | 教育社会心理学特論 学級集団力学特論 学級集団力学演習 集団過程特論 集団過程演習 集団過程演習Ⅰ, 集団過程演習Ⅱ |
| | | ⑨心の健康教育に関する理論と実践 | キャリア発達教育特論 キャリアガイダンス特論 キャリア発達教育演習Ⅱ |
| | B 実習 科目 | Ⅲ 450時間 以上（※ 施設の分 野及び時 間数を問 わない） | ⑩心理実践演習 |

注) 公認心理師科目に対応する専攻の科目を複数履修していても、1科目と数える。

注) 専攻の科目が、①～⑩のうち複数の公認心理師科目領域に記載されている場合でも、いずれか一つの公認心理師科目にしか読み替えることはできない。複数の科目に読み替えることはできない。

愛知教育大学大学院教育学研究科学校教育専攻教育心理学分野 公認心理師カリキュラム読み替え一覧

公認心理師附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるための必要な科目の取り扱いについて（文部科学省平成29年9月15日）

法施行日前に大学院の課程を修了した場合又は法施行日前に大学院に入学している場合

①から⑩までの科目をその類似性からⅠ～Ⅲの3つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計6科目以上相当）を修めている場合に法附則第2条第1校第1号又は同項第2号に該当するものとする

| 平成14年度～平成19年度 入学者 | | | |
|---------------------|-------------------------------|--|---|
| 区分 | 必要科目数 | 公認心理師カリキュラム 科目名 | 愛知教育大学大学院教育学研究科 学校教育専攻教育心理学分野 科目名 |
| A 心理 実践 科目 | Ⅰ ①を必修 として3 科目以上 | ①保健医療分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | ②福祉分野に関する理論と支援の展開 | 発達心理学特論Ⅰ, 発達心理学特論Ⅱ 発達心理学演習Ⅰ, 発達心理学演習Ⅱ 生涯発達心理学特論 生涯発達心理学演習Ⅰ, 生涯発達心理学演習Ⅱ |
| | | ③教育分野に関する理論と支援の展開 | 教育心理学特論 教育心理学演習Ⅰ, 教育心理学演習Ⅱ 教授・学習過程特論 学習心理学特論 学習心理学演習Ⅰ, 学習心理学演習Ⅱ 発達心理学特論Ⅰ, 発達心理学特論Ⅱ 発達心理学演習Ⅰ, 発達心理学演習Ⅱ 認知発達過程特論, 認知発達過程特論Ⅰ 認知発達過程演習Ⅰ, 認知発達過程演習Ⅱ 人格発達過程特論 人格発達過程演習Ⅰ, 人格発達過程演習Ⅱ 道徳性発達特論, 道徳性発達特論Ⅰ, 道徳性発達特論Ⅱ 道徳性発達演習Ⅰ, 道徳性発達演習Ⅱ |
| | | ④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | ⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | Ⅱ 2科目以 上 | ⑥心理的アセスメントに関する理論と実践 | 心理検査法特論 心理検査法演習 教育評価演習Ⅰ, 教育評価演習Ⅱ 教育心理臨床査定特論 |
| | | ⑦心理支援に関する理論と実践 | 教育心理臨床学特論Ⅰ, 教育心理臨床学特論Ⅱ 教育心理臨床学演習 児童臨床心理学特論 児童臨床心理学演習Ⅰ, 児童臨床心理学演習Ⅱ 青年期臨床心理学特論Ⅰ, 青年期臨床心理学特論Ⅱ 教育相談実習Ⅰ, 教育相談実習Ⅱ |
| | | ⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | 教育社会心理学特論 教育社会心理学特論Ⅰ, 教育社会心理学特論Ⅱ 教育集団心理学特論 集団過程特論 集団過程演習Ⅰ, 集団過程演習Ⅱ 集団過程評価特論 集団過程評価演習Ⅰ, 集団過程評価演習Ⅱ |
| | | ⑨心の健康教育に関する理論と実践 | キャリア・ガイダンス特論 キャリア・ガイダンス特論Ⅰ キャリア・ガイダンス特論Ⅱ キャリア・カウンセリング特論 |
| | B 実習 科目 | Ⅲ 450時間 以上（※ 施設の分 野及び時 間数を問 わない） | ⑩心理実践演習 |

注) 公認心理師科目に対応する専攻の科目を複数履修していても、1科目と数える。

注) 専攻の科目が、①～⑩のうち複数の公認心理師科目領域に記載されている場合でも、いずれか一つの公認心理師科目にしか読み替えることはできない。複数の科目に読み替えることはできない。

愛知教育大学大学院教育学研究科発達教育科学専攻教育心理学領域 公認心理師カリキュラム読み替え一覧

公認心理師附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるための必要な科目の取り扱いについて（文部科学省平成29年9月15日）

法施行日前に大学院の課程を修了した場合又は法施行日前に大学院に入学している場合

①から⑩までの科目をその類似性からⅠ～Ⅲの3つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計6科目以上相当）を修めている場合に法附則第2条第1校第1号又は同項第2号に該当するものとする

| 平成20年度～平成24年度 入学者 | | | |
|---------------------|---------------------------|--------------------------------|--|
| 区分 | 必要科目数 | 公認心理師カリキュラム 科目名 | 愛知教育大学大学院教育学研究科 発達教育科学専攻教育心理学領域 科目名 |
| A 心理 実践 科目 | Ⅰ ①を必修 として3 科目以上 | ①保健医療分野に関する理論と支援の展開 | 教育心理臨床査定特論 教育心理臨床学特論Ⅰ 教育心理臨床学特論Ⅱ 児童臨床心理学特論 |
| | | ②福祉分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | ③教育分野に関する理論と支援の展開 | 教育心理学特論 教育社会心理学特論 教授・学習過程特論Ⅰ 教授・学習過程特論Ⅱ 集団過程評価特論 キャリア・カウンセリング研究特論 キャリア・ガイダンス研究特論 |
| | | ④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | ⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | Ⅱ 2科目以上 | ⑥心理的アセスメントに関する理論と実践 | 教育心理臨床査定特論 箱庭療法特論 |
| | | ⑦心理支援に関する理論と実践 | 教育心理臨床学特論Ⅰ 教育心理臨床学特論Ⅱ 箱庭療法特論 |
| | | ⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| | | ⑨心の健康教育に関する理論と実践 | キャリア・カウンセリング研究特論 キャリア・ガイダンス研究特論 |
| | B 実習 科目 | Ⅲ 450時間以上（※施設の分野及び時間数を問わない） | ⑩心理実践演習 |

注) 公認心理師科目に対応する専攻の科目を複数履修していても、1科目と数える。

注) 専攻の科目が、①～⑩のうち複数の公認心理師科目領域に記載されている場合でも、いずれか一つの公認心理師科目にし読み替えることはできない。複数の科目に読み替えることはできない。

愛知教育大学大学院教育学研究科学校教育専攻幼児教育分野 公認心理師カリキュラム読み替え一覧

公認心理師附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるための必要な科目の取り扱いについて（文部科学省平成29年9月15日）

法施行日前に大学院の課程を修了した場合又は法施行日前に大学院に入学している場合

①から⑩までの科目をその類似性からⅠ～Ⅲの3つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計6科目以上相当）を修めている場合に法附則第2条第1校第1号又は同項第2号に該当するものとする

| | | | 平成15年度～平成19年度 入学者 | |
|---------------------|-------|---------------------------|--------------------------------|--|
| 区分 | 必要科目数 | | 公認心理師カリキュラム 科目名 | 愛知教育大学大学院教育学研究科 学校教育専攻幼児教育分野 科目名 |
| A 心理 実践 科目 | Ⅰ | ①を必修 として3 科目以上 | ①保健医療分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | | ②福祉分野に関する理論と支援の展開 | 保育臨床研究特論 保育実践研究演習 幼児心理学特論Ⅰ 幼児心理学特論Ⅱ |
| | | | ③教育分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | | ④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | | ⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | Ⅱ | 2科目以上 | ⑥心理的アセスメントに関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| | | | ⑦心理支援に関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| | | | ⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| | | | ⑨心の健康教育に関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| B 実習 科目 | Ⅲ | 450時間以上（※施設の分野及び時間数を問わない） | ⑩心理実践演習 | 【該当なし】 |

注) 公認心理師科目に対応する専攻の科目を複数履修していても、1科目と数える。

注) 専攻の科目が、①～⑩のうち複数の公認心理師科目領域に記載されている場合でも、いずれか一つの公認心理師科目にしか読み替えることはできない。複数の科目に読み替えることはできない。

愛知教育大学大学院教育学研究科発達教育科学専攻幼児教育領域 公認心理師カリキュラム読み替え一覧

公認心理師附則第2条第1項第1号から第4号までに規定する公認心理師になるための必要な科目の取り扱いについて（文部科学省平成29年9月15日）

法施行日前に大学院の課程を修了した場合又は法施行日前に大学院に入学している場合

①から⑩までの科目をその類似性からⅠ～Ⅲの3つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計6科目以上相当）を修めている場合に法附則第2条第1校第1号又は同項第2号に該当するものとする

| | | 平成20年度～平成28年度 入学者 | |
|---------------------|--|--------------------------------|---|
| 区分 | 必要科目数 | 公認心理師カリキュラム 科目名 | 愛知教育大学大学院教育学研究科 発達教育科学専攻幼児教育領域 科目名 |
| A 心理 実践 科目 | Ⅰ ①を必修 として3 科目以上 | ①保健医療分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | ②福祉分野に関する理論と支援の展開 | 保育臨床研究特論 保育実践研究演習 障害児保育特論 児童福祉演習 幼児心理学特論Ⅰ 幼児心理学特論Ⅱ |
| | | ③教育分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | ④司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | | ⑤産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | 【該当なし】 |
| | Ⅱ 2科目以上 | ⑥心理的アセスメントに関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| | | ⑦心理支援に関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| | | ⑧家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| | | ⑨心の健康教育に関する理論と実践 | 【該当なし】 |
| | | ⑩心理実践演習 | 【該当なし】 |
| B 実習 科目 | Ⅲ 450時間 以上（※ 施設の分 野及び時 間数を問 わない） | | 【該当なし】 |

注) 公認心理師科目に対応する専攻の科目を複数履修していても、1科目と数える。

注) 専攻の科目が、①～⑩のうち複数の公認心理師科目領域に記載されている場合でも、いずれか一つの公認心理師科目にしか読み替えることはできない。複数の科目に読み替えることはできない。